豊橋日独協会　創立25周年記念事業

ドイツ無声映画祭

1926年ドイツ　ウーファ作品／昭和4年度キネマ旬報ベストテン第四位

メトロポリス

METROPOLIS

原作・脚本・・・テア・フォン・ハルボウ　監督・・・フリッツ・ラング　1926年製作

当時のパンフレット

解説

100年後の未来のディストピアを描いたドイツ映画。『ジーク・フリード』のフリッツ・ラング監督による資本主義と共産主義の対立を描いたSF映画の金字塔。以降のSF作品に多大な影響を与えている。

1924年にアメリカを訪れたラングが、ニューヨーク港の船上からマンハッタンの摩天楼を望見してアイデアを得たという21世紀の未来都市の物語である。700万マルクともいわれるドイツ映画空前の巨費を投じ、2年がかりで完成された4時間を超える超大作で、撮影所のステージのなかに摩天楼や地下工場などを設計したオットー・フンテの表現主義的なセットの造型技術と、レンズのわきに鏡を備えつけてミニチュアを拡大し、実物とセットを合成したオイゲン・シュフタンの特殊撮影技術(〈シュフタン・プロセス〉と呼ばれた)が評判になった。

あらすじ

2026年。科学の発展により高度な文明を築きあげ、栄華を極めていたように見えた未来都市メトロポリス。しかし、資本主義の知的指導者階級が華やかに地上で暮らしているのとは裏腹に、メトロポリスの地下では労働者階級の人々が過酷な労働を強いられていた。

ある日、メトロポリスを支配する権力者の息子フレーダー(グスタフ・フレーリッヒ)は、労働者階級の娘マリア(ブリギッテ・ヘルム)と出逢ったことにより、地下の過酷な環境を知ることに。マリアは階級社会の実体を訴え、このことがきっかけとなってストライキの気運が生じる。危機感を抱いたフレーダーの父である権力者のヨハン・フレダーゼン(アルフレート・アベル)は、発明家のロトワング(ルドルフ・クライン＝ロッゲ)を使いマリアを監禁し、マリアそっくりのアンドロイドを作って地下社会へ送り込み、事態を収めようとするのだったが、アンドロイドは狂い始め、労働者達を扇動し始めるのだった…。

METROPOLIS 029 music

無声映画音楽伴奏

楽団　カラード・モノトーン

楽長：湯浅ジョウイチ
(作・編曲、ギター、三味線、指揮)

1994年に結成された無声映画の伴奏音楽(生演奏)を担当する西洋楽器と和楽器とを混成した専属合奏団。ピアノ、フルート、ヴァイオリン、太鼓、パーカッション、三味線、ギター等によって構成。日本独特の活動写真の音楽を地道に研究し、無声映画全盛期における伴奏音楽の再現に取り組む一方で、映画音楽における新機軸を打ち出し、好評を博している。現在、澤登翠、坂本頼光等の活動弁士と共に各地で行っている公演活動は年間数十回(ミニユニットによる演奏を含む)に及ぶ。高度な演奏技術と共に、日本におけるサイレント時代の映画音楽を再現出来る数少ない演奏家集団としても高い評価を受けている。

Rhetorician

活動弁士

澤登　翠(さわと・みどり)

台本、語り

法政大学文学部哲学科卒業。
故松田春翠門下。

日本の伝統話芸「活弁」の第一人者として、国内を始めフランス、イタリア、アメリカ他海外にも招聘され公演している。洋画、現代劇、時代劇とレパートリーも豊富。これまでに文化庁芸術祭優秀賞、シネマ夢倶楽部賞、文化庁映画賞他を受賞。無声映画鑑賞会での公演を基盤にフィルムセンターや各地の映画祭での公演、大学他での講座、TV番組のナレーション、朗読とその活動は多岐に亘る。昨年、「文藝春秋」の「日本を代表する女性120人」に選出された。

- ●2013年度　文化庁映画賞(功労部門)受賞
- ●2012年度　シネマ夢倶楽部賞(日本ファッション協会)受賞
- ●2010年度　「音の匠」として日本オーディオ協会より顕彰される
- ●2002年　平成14年度文化庁芸術祭優秀賞(演芸部門)受賞
- ●2000年　第21回山路ふみ子文化財団特別賞受賞
- ●1995年　日本映画批評家大賞ゴールデン・グローリー賞受賞
- ●1990年　日本映画ペンクラブ賞受賞